

4. ワモンナガハムシ

Z. (P.) amulata (BALY)

1 ex., 群馬県武尊山, 10. vii. 1972; 1 ex., 群馬県大尻沼, 16. vii. 1972; 1 ex., 岐阜県平湯, 31. v. 1972; 1 ex., 鳥取県伯耆大山, 17. vi. 1971; 1 ex., 長崎県雲仙岳, 26. iv. 1976; 4 exs., 長崎県雲仙岳, 16. viii. 1977; 5 exs., 長崎県島原市眉山, 9. viii. 1976; 以上筆者採集; 1 ex., 徳島県剣山, 29. vii. 1969, 渡辺昭彦採集

北海道より九州までの温帯林～暖帯林帯上部で得られる。長崎県においては、島原市眉山および雲仙岳で4～8月に得られるが、特に雲仙岳では非常に多い。

5. モンキナガハムシ

Z. (P.) flavonotata (CHŪJŌ)

1 ex., 石垣島オモト岳, 2. iv. 1973, 三陰外茂治採集 石垣・西表両島で少数の個体が得られている。前胸は赤褐色。上翅は黒色で、黄白色の幅広い紋をもち、本亜科の種の中では最も美しい色彩をしている。(写真右)

6. オビモンナガハムシ

Z. (P.) unifasciata (JACOBY)

1 ex., 宮崎県青井岳, 7. viii. 1974, 三陰外茂治採集 従来, 本州・四国から得られていた。九州よりは初めての記録と思われる。

- 1) 大野正男(1971): 東洋大学紀要, (13), pp. 31～126
- 2) M. CHŪJŌ (1958): Kagawa Univ. Mem. Fac. Lib. Arts & Educ., 2 (64)
- 3) S. KIMOTO (1964): Kyūshū Univ. J. Fac. Agr., 13 (1)
- 4) S. KIMOTO & L. GRESSITT (1966): Pac. Ins., 8 (2), pp. 467～577

(〒855 島原市白土町1064)

福島県いわき市のカミキリ6種

大桃 定洋

筆者は、福島県いわき市において、興味深いと思われる次の6種のカミキリを採集したので報告する。

1. オオハナカミキリ

Anoplodera (Konoa) granulate (BATES)

1 ♀, いわき市江田, 20. vii. 1977

ノリウツギの花に飛来した。同地は標高200～250mの所で、従来中山帯から記録されていた本種が、このような低山地から得られたことは興味深い。また、同時に採集されたヒメアカハナカミキリ(2♂♂ 2♀♀)についても、同様のことがいえよう。

2. タケウチホソハナカミキリ

Strangalia (Sulcatostrangalia) takeuchii

MATSUSHITA et TAMANUKI

1 ♂, いわき市江田, 20. vii. 1977

ノリウツギの花に飛来した。北海道産の個体と比較すると、かなり大型で、上翅の黄色部も広く、紀伊半島産の個体に近い。本種は、北海道から九州まで全国的に産するとはいうものの、本州における産地は限られており、富士山、南アルプス、段戸山、紀伊半島などが知られているだけで、関東地方から東北地方にかけてはまったく知られていなかった。本記録はこの空白を埋めるもので、将来、北上山地などからも、記録される可能性を示唆しているものと思われる。(写真左)

3. クロトラカミキリ

Chlorophorus diadema kurotora HAYASHI

2 exs., いわき市江田, 20. vii. 1977

ノリウツギの花に飛来した。本個体はいずれも、従来福島県下で得られている ssp. *inhirsutus*¹⁾ とは異なり、微毛が黄灰色で、前胸の黒紋も大きく、西南日本亜種と思われる。

4. タキグチモモブトホソカミキリ

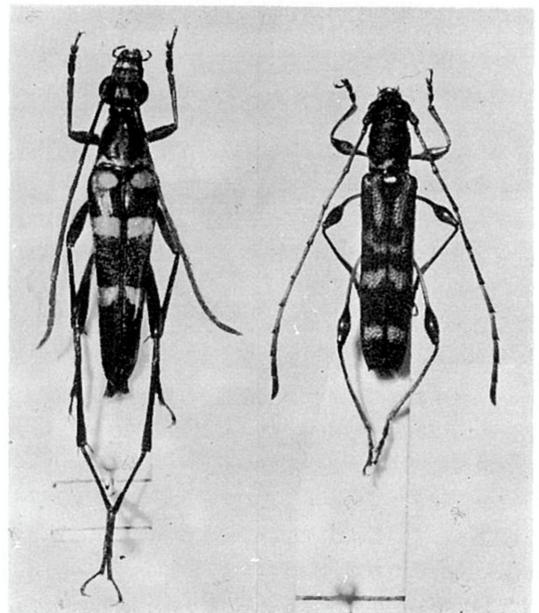
Cleomenes takiguchii OHBAYASHI

1 ♂, いわき市江田, 20. vii. 1977

ノリウツギの花に飛来した。本種の東日本における既産地は、東京都下奥多摩・伊豆半島猫越で、本記録は北限を示すものと思われる。(写真右)

5. ゴインモモブトカミキリ

Callapoecus guttatus BATES



1♂, いわき市江田, 19. V. 1977

ソダのビーティングで得た。時期的にも早く、面白い記録と思われる。福島県初記録種。

6. ブロウニングカミキリ

Saperda (Saperda) breuningi OHBAYASHI

1♂, いわき市江田, 19. V. 1977

オニグルミの葉上から得た。中山帯で採集される種で、このような低山地から得られたことは興味深い。

なお、筆者は先に、いわき市周辺で採集したタマムシやハナノミの記録²⁾から、同地には南方系(西南日本分布型)の興味ある昆虫が分布する可能性が充分にあることを指摘した。本報告は、これを実証したものであり、同地にはかなり南方系の昆虫が分布しているものと考えられる。さらに、オオハナヤブロウニングなどの例にみられるように、いわゆる山地性の種も多く、平地~低山帯でありながら、いわき市周辺の昆虫相は複雑で、今後の調査に大いに興味もたれる。

1) 田添京二・大桃定洋(1977): さやばね, No. 3, p.37

2) 大桃定洋(1976): ELYTRA, 4(2), pp. 35~36

(〒167 杉並区西荻窪北 3-22-15 西荻コーポラス202)

岩手県早池峰山麓で

トウホクトラカミキリを採集

武智 昭一

トウホクトラカミキリ *Chlorophorus tohokensis* HAYASHI は、1950年に青森県十和田で採集された1♀により記載されて以来、しばらくの間採集例を聞かなかったが、最近、青森県津軽半島の小泊で1♂(阿部・高桑, 1974)*, 同県十和田で1ex., (水野, 1976)**)と2頭の採集例が追加されている。

筆者は岩手県下の早池峰山麓で本種を採集しているので、報告しておく。今までは青森県下のみより記録されていたが、これで東北地方の他県にも分布している可能性が大きくなったと思われる。

1♂, 岩手県下閉伊郡川井村葛部沢, 6. viii. 1977

採集場所は早池峰山麓の平津戸から、閉伊川を隔てた葛部沢上流の伐採地である。標高600~700m程度、周囲はブナ・ミズナラを主とした広葉樹林で、本種は土場にあった直径15cmほどのミズナラ伐採木の樹皮のめくれた先端部に飛来した。採集時刻は午後1時30分、晴天で土場における他のカミキリとしては、クビアカトラ・ツマキトラ・ホソトラ・クロトラなどが多く、クロトラは西南日本亜種と思われる個体で興味深い。

本種は斑紋のよく似ているホソトラと比べると、一見して、前胸がはるかに幅広く短いこと、前胸背にまった

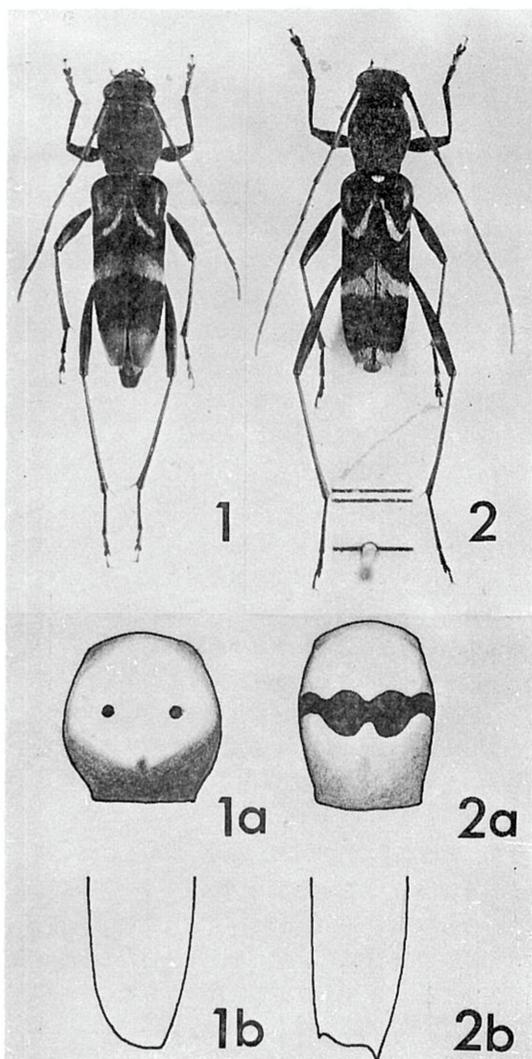


写真1 トウホクトラカミキリ, ♂

1 a 同, 前胸背 1 b 同, 右上翅翅端

写真2 ホソトラカミキリ, ♂

2 a 同, 前胸背 2 b 同, 右上翅翅端

くつながらない小さな黒紋をもつこと(写真ではよくわからないので、図を付する)、上翅の斑紋が異なること、上翅翅端がとがらないこと、足・触角がはるかに短いことなどの諸点で容易に区別することができる。上記の写真(いずれも♂)を比較参照していただければ、その差異が明らかになると思う。

本種の同定、および種々御教示いただいた藤田宏氏に御礼申し上げます。

* 阿部・高桑(1974): 甲虫ニュース, Nos. 23/24, p.10

** 水野(1976): 月刊むし, 64号, pp. 29~30

(〒190-01 東京都西多摩郡日の出町 2196-484)